

4 ネギは東へ、タマネギは西へ

ネギのなかまの野菜には、ニンニク、ニラ、ラッキョウなどがあるよ。ネギのふるさととは中国だ。そこから朝鮮半島や琉球を通して日本へと伝わってきたんだね。ニラとラッキョウも古代中国で栽培化され、ネギとおなじように、古代に日本へ伝わったよ。ネギ属には、野や山に自生しているノビルやギョウジャニンニクのように、野草でも食用に採集されるものがあるよ。

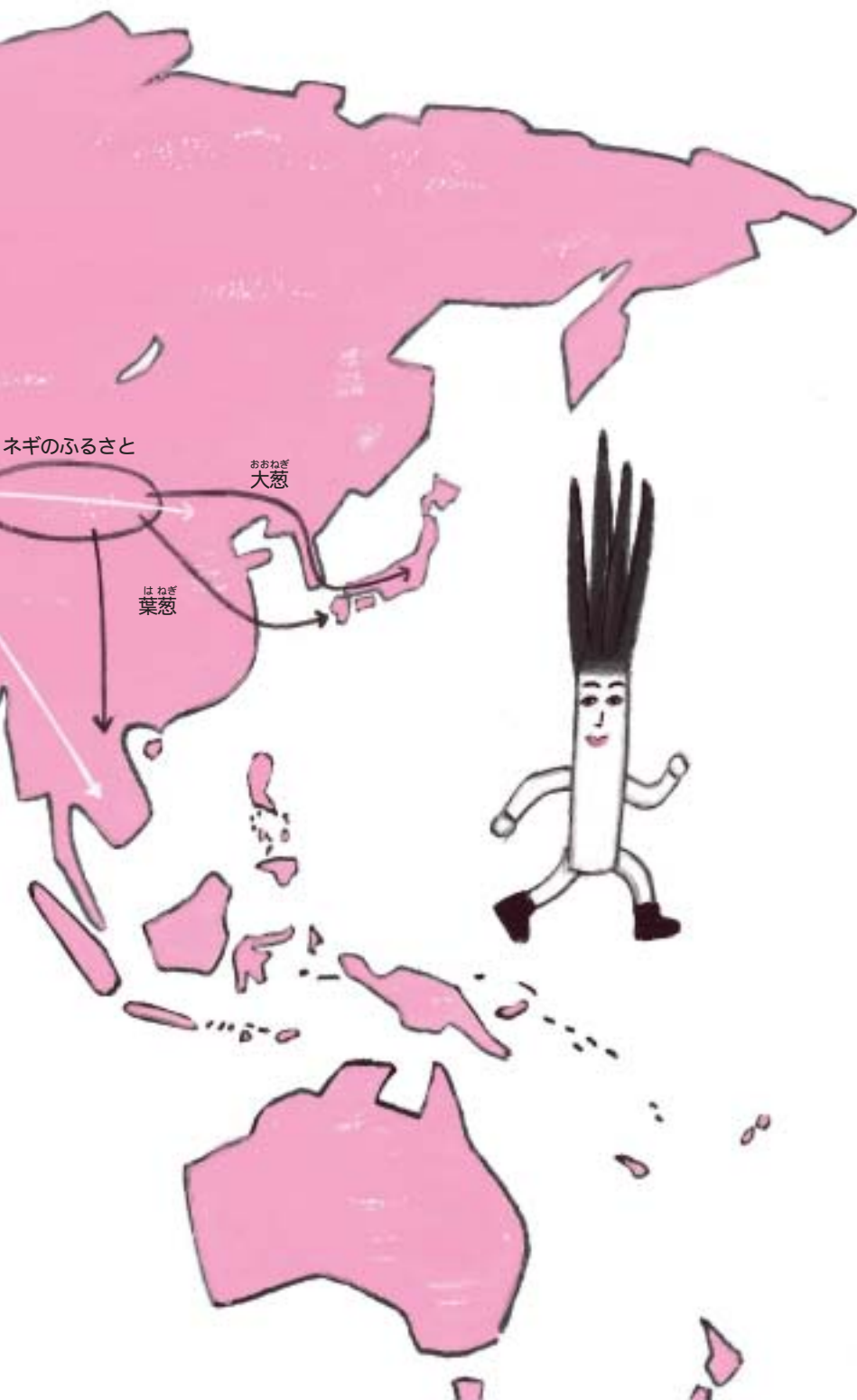
中国で生まれたネギ

ネギの祖先種と考えられるアリウム アルタイクムは、冬には気温がマイナス30にもなる寒さの厳しいモンゴルや南シベリア、中国の北西部に、いまでも野生しているよ。タマネギやニンニクのふるさとにくらべて、冬の寒さは厳しいが、夏は涼しい場所だ。石の多い斜面に生えていることが多いんだ。そのアリウム アルタイクムが、いまから2200年以上もむかしの古代中国で、庭や畑に植えられ、少しずつ改良されてネギになったんだ。土寄せをする根深ネギ(中国では大葱という)の栽培方法も紀元前の中国で始まり、品種群も、北方の「大葱」と南方の「葉葱」に分化していったらしい。「大葱」は冬に休眠するものが多く、寒さに強いんだ。「葉葱」は冬に休眠しないものが多く、暖地に向いてるよ。

日本へやってきた

中国で生まれたネギは、5世紀には日本へ渡来していたよ。その後、すぐに日本じゅうに広まり、重要な野菜のひとつとして親しまれてきたというわけだ。「大葱」は、朝鮮半島をとって日本に渡来して「加賀群」のもとになった。「葉葱」は、おそらく琉球をとって渡来し、「九条群」のもとになったと考えられる。だけど「千住群」の由来は、はっきりしていないんだ。「大葱」のなかにも冬に休眠しないものがあって、それが「千住群」のもとになった、という説が有力だけれど、「葉葱」から日本で生まれた「九条群」から、根深ネギに適するものが分かれて「千住群」になった、という説もあるよ。





ひがし

東へ向かったネギ

ふしぎなことに、ネギは中国から西方へはなかなか伝わらず、現在でも東アジアと東南アジア以外ではあまり栽培されていないんだよ。中国の西方、中央アジアから西アジアにかけての地域は、夏はとても暑いうえに雨が少なく、ネギの栽培には適さないところだからかな。

にし

西へ向かったタマネギ

いっぽう、中央アジアで生まれたタマネギは、早くから西方へ広まり、紀元前2700年までにはエジプトに伝わっていたらしい。さらに南ヨーロッパへ伝わり、ギリシャ・ローマ時代には一般的な野菜となっていたんだ。けれど、中央アジアから東方へは伝わらなかったようだ。東方にはネギがあったから、タマネギはあまり食べられなかったのかな。

ニンニク 西にも東にも

ニンニクのふるさとともタマネギとおなじような地域で、タマネギとおなじような道をたどって西方へ広まった。けれどタマネギとちがって東方へも広まり、紀元前113年に中国へ伝わり、日本へも10世紀までには中国から伝来していたんだ。独特の味、香り、薬効をもつニンニクは、ネギとはまったくちがう野菜として、東アジアでも早くから受け入れられていたんだね。